

伊万里労基署便り

令和8年7月
伊万里労働基準監督

伊万里労働基準監督署では、令和8年4月から6月までの間、管内の事業場の皆さまに対し、「熱中症予防対策アンケート」を実施させていただき、今回、69事業場の皆さまから回答いただきました（業種は、製造業（造船業含む）、建設業、運送業、卸・小売業、飲食業、介護福祉業など）。

ご回答いただいた皆様、誠にありがとうございました。

本アンケートは、管内（伊万里市・有田町）の事業場向けアンケートですので、身近な事業場の方が実際に実施している熱中症対策の事例や共通の悩みや課題ということで参考にいただければ幸いです。

1. アンケート結果について

① 熱中症リスクのある作業の実施状況と WBGT 値の測定の有無について（問題あり）

「気温 31℃以上又は WBGT 値 28℃以上の環境下で、連続 1 時間以上又は 1 日 4 時間を超える作業が見込まれる」と回答した事業場は 36 事業場（52.2%）でした。

一方で、作業場所で WBGT 値を測定している事業場は 31 事業場（44.9%）にとどまり、38 事業場（55.1%）は測定していませんでした。

身体は汗の蒸発によって体温を下げていますが、

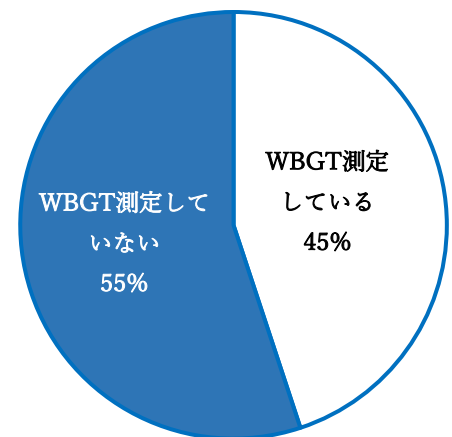
- 気温が高い
- 湿度が高い
- 日射や輻射熱が強い
- 作業負荷が大きい

といった条件が重なると、体内に熱が蓄積しやすくなります。

WBGT 値（暑さ指数）は、

- 気温
- 湿度
- 輻射熱（日射・照り返し等）

を総合的に評価した指標であり、熱中症リスクを判断する基本的な指標とされています。



② 水分・塩分補給対策について（良好）

用意している：60 事業場（87.0%）、用意していない：9 事業場（13.0%）でした。準備物はスポーツドリンク・経口補水液、塩飴・塩タブレット、冷水機、麦茶、保冷剤でした。

③ 暑熱順化対策の実施について（問題あり）

暑熱順化が進むと

- 発汗量が増える
- 汗に含まれる塩分量が減る
- 体温上昇を抑えやすくなる

などの効果があり、熱中症リスクを大きく低減できます。

一方で、

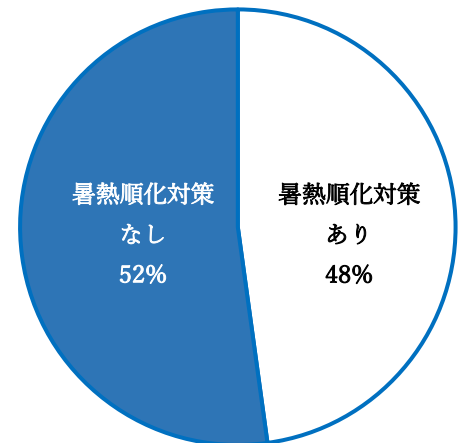
- 新規入職者
- 長期休暇明け
- 異動者
- 梅雨明け直後

は暑熱順化が十分でないことが多く、熱中症発症リスクが高くなります。

アンケート結果は、

実施：33 事業場（47.8%）、未実施：36 事業場（52.2%）でした。

実施している事業場で行っている主な内容は、作業負荷の軽減、こまめな休憩、朝の体調確認、水分補給の促進、健康チェックの強化でした。



④ 教育・周知の実施状況について（良好）

実施：64 事業場（92.8%）、未実施：5 事業場（7.2%）でした。

実施している事業場の主な内容は、熱中症の症状、予防方法、緊急時対応、熱中症発生事例、医療機関情報の周知でした。

⑤ 熱中症災害を発生させた事業場が取り組んだ再発防止対策について

これまでに熱中症災害を発生させたことのある事業場からは、**サーマバンド導入検討、ウォーターベスト試験導入、水分・塩分補給教育の再徹底**といった取組をご回答いただきました。

2. アンケート結果から見た現状について

半数以上の事業場で、法令上も熱中症対策が重要となる高温環境作業が存在しています。

高温作業がある事業場が 36 社ある一方で、WBGT 測定実施は 31 社です。高温作業を実施しているにもかかわらず WBGT 測定を行っていない事業場が複数見られました。

水分・塩分補給対策と教育・周知の実施状況は良好でした。

暑熱順化対策は半数以上が暑熱順化対策を実施していませんでした。

3. 業種ごとの注意点

製造業・造船業

炉や熱源設備、建屋内の高温環境、通風不足が課題として挙げられました。
スポットクーラーや送風設備の活用、休憩場所の冷房化、WBGT 値に応じた作業管理が重要です。

建設業

直射日光下の作業や休憩を取りにくい作業体制が課題でした。
日陰や冷房設備のある休憩所の確保、作業時間帯の見直し、複数人作業による相互確認を推進してください。

運送業・小売業

単独作業や管理者の目が届きにくい環境が課題として挙げられました。
定期連絡やウェアラブル機器の活用、水分補給状況の確認など、離れた場所でも健康状態を把握できる仕組みづくりが必要です。

飲食業・サービス業

厨房等の高温多湿環境や、繁忙時に休憩・水分補給が後回しになることが課題でした。
短時間でもこまめな休憩を確保し、従業員同士の声掛けを徹底しましょう。

介護福祉業

利用者対応を優先するあまり、水分補給の遅れ・休憩不足・体調不良の我慢をしてしまうことが課題でした。
送迎時の車内温度管理、入浴介助時の作業時間調整、経口補水液等の備蓄が必要です。

4. 今後の課題について

アンケート結果の内容を整理すると、課題は大きく分けて5つに分類できました。

① 作業環境の改善

例:

- 空調設備不足
- 屋外直射日光下での作業
- 倉庫や工場の高温化
- 休憩場所の確保

② 人手不足・工程管理

例:

- 忙しく休憩が取りづらい
- 作業を止められない
- 作業時間短縮による工程遅延
- 管理監督者不足

③ 個人差への対応

例:

- 暑さ耐性の個人差
- 高齢者への対応
- 体調不良を申告しない作業者
- 「自分は大丈夫」という意識

④ 早期発見の難しさ

対策例:

- 朝礼時の顔色確認
- 声掛け
- パトロール
- 相互確認
- 尿色チェック
- 体温監視機器活用

⑤ コスト問題

例:

- 電気代上昇
- 空調設備導入費
- 冷却設備の効果判断

5. 優良事例について

熱中症対策として実際に行っている事例で、優良な事例について紹介します。

- サーマバンド（深部体温上昇検知器）の活用検討
- ウォーターベスト導入検証
- 尿色ポスターによるセルフチェック
- WBGT に応じた作業中止
- サマータイム導入
- 外作業と屋内作業のローテーション
- 夏季特別休憩制度

6. 総括

このアンケート結果から評価できることは、

「教育・周知」と「水分塩分補給」はかなり浸透している一方で、WBGT 測定と暑熱順化対策はまだ十分ではない

ということでした。

伊万里市・有田町の事業場の皆さまにおかれましては、今後の重点取組事項として

1. WBGT 測定の確実な実施
2. 暑熱順化対策の徹底
3. 休憩場所・冷却設備の整備の導入
4. 管理者による体調確認の強化
5. 個人差を考慮した作業管理



が有効と考えられます。

熱中症は気持ちで防げるものではありません。暑熱環境を客観的に把握し、WBGT 値に応じた作業管理を行うこと、そして暑熱順化や体調管理を組み合わせることが重要です。また、令和8年の「STOP!熱中症 クールワークキャンペーン」では、

- 暑さ指数の低減
- プレクーリング（作業開始前や休憩時間中に深部体温を下げる）
- 通気性の良い服装を着用
- 日常の健康管理（作業開始前に睡眠不足、前日の多量飲酒等が熱中症の発症に影響することを指導し、作業開始前に確認）
- 糖尿病等の持病のある労働者について医師の意見を踏まえ配慮

等の対策徹底が挙げられています。

伊万里労働基準監督署としては、今後も管内事業場の皆さまと連携しながら、熱中症による労働災害ゼロを目指して取り組んでまいります。